

## 私を変えた先生との出会い

昔の話をすると、「今と、昔は違う！」そう思われるかもしれませんが、優しさに触れた時の人の心と、優しさを与えた人の心は時代が変わっても同じだと思います。

私は、3歳の時に母がいなくなり、父親の手で育てられました。父親が育てるというのは、全てに於いて不自由な生活でした。小さな子ども4人を育てなくてはならないのですから、大変なことだったと思います。いじめにあうことは言うまでもありませんが、一番困ったことが、朝が起きられない、食事がきちんと食べられない、学校で必要な物を買って貰えないということでした。

双子だった私は、1年生に入学してもランドセルがなく、当時お祝いで貰った布バックで通学していました。暫くして、余りの哀れさなのか、校長先生からランドセルが渡されました。私共二人のために、必要のなくなったランドセルを探してくださったようです。大切に使っていましたので、卒業式の当日には、未だ綺麗にしているランドセルを譲ってほしいという方がおり、お渡しした記憶があります。

学校まで6キロの道のりを通うには、早起きしないと行けません。当然起きられない私たちは学校も休みがちになりました。父親の仕事の車に乗って学校へ行くと、校長先生が開けに来るのを2時間近く待たなければなりません。何度か繰り返すうちに、校長先生が学校の上の方から手招きされるのです。「朝ごはん食べたね?」「食べてない。」「一緒に食べようか?」「うん。」食事が終わったら、「この鍵で学校に入りなさい。開けたら校長室の机の上に置いてね。」と鍵を渡されます。今思うと、私共と校長先生との信頼がどれほどのものだったか考えます。

2年生になると、校長先生は異動となりました。担任には新任の先生がなりましたが、「遅れてもいいから学校には来なさい。」と、優しく言ってくれました。時には、「朝ごはん一緒に食べようか!」と、朝ごはんをご馳走になったこともあります。休んだ分の勉強を地区の真ん中の児童の家まで、6キロの道のりを自転車をこいで来られ、復習会と言って教えに来てくれた事も何度もありました。きっと、校長先生が先生に私たち姉妹のことを伝えられていたんだと思います。

社会に出て、挫折を繰り返し、誘惑に負けてしまいそうになることも何度もありましたが、「先生だけは裏切れない!」この事があり、乗り越えられていました。結婚して子どもが学校に通うようになり、幸い、我が家は先生方と地区の方との交流の場所となり、当時の校長先生の連絡先を調べていただき、40年ぶりに私の伝えたかった「先生のおかげで今があります。本当に伝えたかった。」と伝えることができました。先生も鮮明に覚えておられ、私は感謝致しました。

私の子どもたちにも、そんな先生を探しています。

福元 和子  
(一般)